

平成 24 年度 日本花菖蒲協会観賞旅行

静岡県袋井市 鈴木秀次郎

6月24日(日)

赤湯駅集合→あやめ公園→はぎ苑泊

東京駅を定刻10時8分に発った「つばき133号」は、福島駅で併結してきた「やまびこ133号」と別れ山形新幹線(奥羽本線)に入った。

車窓の両側に見える山の緑は、その濃さを増し夏の近いことを告げていたが、左手奥にはまだ頂上が残雪で真白な飯豊連峰が望まれた。

米沢を過ぎ、集合場所である赤湯駅には12時33分に到着した。駅で休憩をしながら待っていると、ほどなく本日の宿泊先である「はぎ苑」のマイクロバスが迎えに来たので「長井あやめ公園」に向かった。

あやめ公園に入ると内谷長井市長の出迎えを受け、歓迎の御挨拶を頂いた。

この後、今野一彦あやめ公園管理専門員の案内で園内を見学した。日曜日ということもあり多くの入園者がいた。今年は天候の加減で1週間ほど開花が遅れているとのことだった。長井古種、長井系品種の保存を主たる目的として、3.3ヘクタールに500種100万本が植栽され、整然と品種管理がされていた。園の一角には花菖蒲協会清水理事長寄贈品種園が設けられていた。



他の菖蒲園と同様にこの園でも連作障害への対策がとられ、植えかえ時にトラクターで深く耕す、一部土の入れ替えを行う、堆肥(牛フン)

を多く入れる、有機肥料を使用する、植え替え時にはそれまでと植え場所をずらす、植え替えは3年を基本とするが品種によっては2年で行う・・・等工夫がされていた。

一通り園内の説明が済んだあと、全員で記念写真を撮り、あやめ会館2階でサクランボとお茶の接待を受け休憩をした。



この後、出発まで1時間ほど時間があつたので自由時間とし、ボランティアの方の案内で歴史的建物が残る町並みの見学に向かうグループと、園内をさらに散策するグループに分かれた。

園内に残った参加者は、販売されていた「長井小紫」などの苗を購入したりしていた。園内を見て回りながら、栽培管理、品種の整理をされている方の日頃の御苦労を感じた。

時間が来たので、先ほどのマイクロバスで宿に向かった。

宿は、川を挟んであやめ公園の対岸にあった。風呂は、廊下でつながっている日帰り温泉を兼ねた「卯の花温泉はぎ乃湯」で、源泉かけ流しの薄い黄緑色をした柔らかい感じの弱アルカリ泉だった。

夕食は、イス掛けのテーブルを並べた広間で、椎野会長の挨拶で始まった。料理に出た置賜名物「鯉の甘露煮」は、濃い味付けながらもどくなく良い味だった。

宴会場のここかしこでは、花菖蒲の話で盛り上がっていた。宴会の後は、アルコールと旅の疲れで部屋にて休む者、夜間ライトアップされているあやめ公園の花菖蒲を見に行く者いろいろで長井の夜は更けていった。

6月25日（月）

はぎ苑→南方花菖蒲の郷公園→いつくし園泊

2名の長井市観光振興課職員の方の見送りを受け、8時10分に貸切バスで宿を出発した。

昭和37年に日本花菖蒲協会の会長ほか30余名が長井を訪問、長井独自の品種を発見し「長井古種」と命名した。それ以来の長井市と協会の深い繋がりがあるとはいえ、今回の視察に当たり長井市の皆様には、市長の御挨拶、園内の説明・案内、休憩所での接待、出発時の見送りと様々なご配慮をいただき大変恐縮をいたしました。

1時間ほど走ったバスは、休憩も兼ね「山形県観光物産会館」に立ち寄った。銘菓、民芸品、地酒など県内の特産品が一堂に集められていた。中でも丹精込めて作られた旬のサクランボは、その大きさ、色とも素晴らしい品質のものが並べられていた。

そして、蔵王インターから山形自動車道に入り、東北自動車道の築館インターで高速道路を出た。

インターを出てほどなくバスガイドさんから、今年の3.11大震災時の最大震度は、ここ栗原市で震度7を記録したとの説明があった。

車窓から外を眺めていると、屋根瓦の壊れたままの建物、屋根を修理している建物などが散見された。

しばらくバスを走らすと、登米市の「南方花菖蒲の郷公園」に到着した。ここは前身の新川花菖蒲園を引き継いだもので、平成5年に開園したとのことだった。



駐車場、広場が小高い所にあり、緑花木を植えた緩やかな芝生斜面を下った低地が花菖蒲園になっていた。

周辺の山里風景にも溶け込んで美しい景色を作っていた。



この公園でも今年の地震の爪痕が残っており、広場の一角に壊れたままの排水路、斜面の一部に崩壊の跡が見られた。

花菖蒲園を見学の後、同じ市内にある、古い酒蔵を利用した食事処「海老喜」に向かった。御当地グルメの「あぶら麩」などが上品に調理された松花堂弁当は、美味だった。

バスガイドさんの説明で、この辺りではその昔、硯石の原石を掌の2倍くらいの大きさの鱗状に削り出し、屋根瓦として用いたとの話があった。

この、海老喜の明治時代に建てられた旧店舗、及び塀の屋根はこの瓦が用いられ、その歴史が感じられた。

食事の後、天保年間創業という老舗の味の醤油、味噌を買い求めている参加者が多かった。

バスは本日の宿泊場所である厳美溪温泉に向かって出発した。

途中、厳美溪に立ち寄り散策、名物の団子を食べたりした後、坂上田村麿公創建の達谷窟毘沙門堂、岩面大佛を見物し、16時30分本日の宿泊先である「いつくし園」に到着した。

厳美溪河畔にある和風旅館で部屋、風呂はゆったりした感じでくつろげた。夕食は広間にて宴会形式で行われ、自己紹介では、花菖蒲のこと趣味のことなど話したい事が多く時間が足りないくらいだった。

6月26日(火)

いつくし園→毛越寺→中尊寺→一ノ関駅解散

バイキングの朝食を済ませた後、8時30分宿を出発し、快晴の中、栗駒山の雄姿を眺めながらバスは一路毛越寺に向かった。

毛越寺に到着すると、櫻岡管理部長の出迎えを受け、本堂に案内され、お寺の歴史・御本尊の御説明を頂いた。その後、浄土庭園の奥にある花菖蒲園に案内された。花菖蒲が周りの庭園の風景に溶け込んで風情あるたたずまいとなっていた。



3万株といわれる花菖蒲の咲き具合は例年より少し遅れているようだった。

花菖蒲園の中で並んで記念写真を撮った後、平安時代の作庭様式を残した広大な庭園の池の周りを散策しながら駐車場へ戻った。

中尊寺では坂の上の駐車場でバスを降り、金色堂、宝物館拝観後、昼食場所に12時集合ということで自由散策となった。

「五月雨の降りのこしてや光堂」の句碑、松尾芭蕉像、旧覆堂を見学の後、本堂、弁慶堂、西行の歌碑等に立ち寄りながら樹齢200~300年の杉が生い茂る月見坂を下った。

集合場所に向かう途中に、武蔵坊弁慶の墓と伝えられる場所があり立ち寄った。「色かえぬ松のあるじや武蔵坊」の句が添えられていた。

食事場所の「ゆめやかた」で昼食を取った後、ここに併設されている、初代藤原清衡から四代泰衡まで4代の栄華と滅亡の歴史と文化の名場面を再現したロウ人形館を見物した。

今にも動き出しそうな精巧な造りで迫力があつた。有名な弁慶立ち往生は昔見たテレビの場面を思い起こさせた。弁慶、衣川、高館・・・「夏草や兵どもが夢の跡」。

そうこうしているうちに出発時間が来たのでバスで一ノ関駅に向かった。

去年は、3.11大震災で観賞旅行が中止となったので、昨年予定していたコースで今年実施された。天候にも恵まれ楽しい旅行となった。

2泊3日の短い間だったが、参加者24名はこの旅行を計画して下さった幹事の小山さんに感謝しつつ、名残惜しさ半分、一方では家に残してきた花菖蒲に思いをはせ、13時30分一ノ関駅で解散となった。